

冠動脈CT検査におけるβ遮断薬の副作用に対する看護ケアの検討

¹北海道社会保険病院田中 理恵¹、中村 陽子¹、山口 隆義¹、高橋 大地¹

【目的】冠動脈CT検査は、冠動脈の狭窄病変等の評価に有用であり、当院でもH20年6月より開始した。しかし、心拍数が60BPMを超える場合には良好な評価が行えないため、β遮断薬であるインデラル注を用いて、心拍コントロールを行っている。そこで、現在の検査による副作用の把握と、より安全な検査を行うための看護ケアを検討した。【方法】研究対象：冠動脈CT検査を施行した1402例 インデラル注を使用した972例、インデラル注平均使用量6.4mg 実施期間：H20年6月～H21年6月 研究方法：※看護師二人体制とし、入室から撮影終了後30分まで、血圧および心拍数の測定、副作用の有無を観察。 ※副作用に関しては、β遮断薬の影響、造影剤の影響の2つの群に分類。【結果】1) β遮断薬の影響として、収縮期血圧が20mmHg以下に低下した割合は1.34%だった。治療、処置が必要な症例は無かった。2) 造影剤の影響として副作用を認めた割合は、3.56%であり、β遮断薬に比べ有意に高かった。3) β遮断薬の副作用として、頭痛、胸部圧迫感の訴えが多かったが、処置せず改善した。【総括】インデラル注を使用して重篤な副作用はなかった。しかし、リスクの観点から看護師二人体制を取ることは、副作用の早期発見、早期対応に有効と考える。検査オリエンテーション時、検査への不安などを観察し、適切な説明をすることは、患者に安心を与える。冠動脈CT検査における看護師の役割は、安全・安楽を第一に考えた観察が最も重要であるという示唆を得た。